

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 24 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370126

研究課題名(和文) 日本絵画の 復元 に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental research about restoration of Japanese paintings

研究代表者

鷹野 佳世子 (Karino, Kayoko)

東京大学・史料編纂所・特別研究員

研究者番号：40570065

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本絵画の復元について、関連機関や企業、技術者らへの取材を行うとともにこれまでの事例についての基礎調査を行い、現状と問題点の把握に努めた。また、復元事業で先行する他の文化財分野についても取材と調査を進め、比較検討を行った。並行して、今後復元研究に携わる可能性のある学生や若手の美術史研究者を対象に、絵画技法材料・分析科学・歴史学など多分野にまたがるテーマを取り上げたワークショップを開催し、人材育成とネットワーク作りを進めた。

研究成果の概要(英文)：In the restoration of Japanese paintings, we covered relevant organizations, companies and engineers and conducted basic surveys on past cases and tried to grasp the current situation and problems. We also conducted interviews and surveys on other cultural assets prior to the restoration project, and conducted a comparative study. In parallel, for students and young art history researchers who may be involved in restoration research in the future, we held a workshop on topics that span multiple fields such as painting technique materials, analytical science, historical studies, and promoted human resource development and networking.

研究分野：文化財保存学、美術史

キーワード：復元 美術史 文化財保存学 博物館学 日本絵画

### 1. 研究開始当初の背景

日本において絵画の「復元」は様々な目的・手法により数多く制作されているが、学術的な方法論の構築と研究者間の意識の共有が不十分であるため、復元の水準の格差が大きく、鑑賞者にも正しい情報が伝わりにくい状況となっていた。そこで、復元の精度と学術的価値の向上を目指すため、復元に関わる現場の現状・課題を把握し、解決策を講じる基礎的研究に着手する必要性があった。

### 2. 研究の目的

本研究は美術史・実技・科学の研究者が分野を越えて絵画の復元について論議し、過去の復元事例の再検討と、今後復元が望まれる絵画についての擬似復元を行うことで、学術的な観点から復元根拠の検討、制作工程の判断基準を明確化し、公開手法を含めた「復元」の方法論を提示する。また、美術史研究における作品の復元的考察についても、実技研究や科学研究と融合を図ることにより研究の更なる発展を促す。

### 3. 研究の方法

本研究では多分野に跨る視点から近現代の絵画復元事例の基礎調査、学術研究における絵画の復元に関する基礎調査、実技系研究における絵画の復元に関する基礎調査を実施し、今後の絵画復元において想定される問題と解決案、絵画の復元が一定水準を保つための理念、準拠を学術的観点から検討することを計画していた。ただし、初年度の調査において、日本絵画の復元に関しては理念や評価の指標が明示された例がなく、報告書についても刊行事例がほとんどないため、先行する復元事例の記録の調査は難しいことがわかった。そのため、二年度以降は引き続き関係機関や技術者への取材を通じた基礎調査に加え、今後の指標の参考となるような復元の先行分野(考古学、建築、工芸、彫刻など)の専門家にも取材を行い、各分野における復元の理念や手法について調査を行った。

### 4. 研究成果

研究期間中、現代における日本絵画の復元の実態を把握するため、文化庁、東京芸術大学、愛知県立芸術大学、有限会社六法美術、京都国立博物館、名古屋城、徳川美術館などの関連機関および専門家への取材を行った。取材を通して、日本絵画の復元については文化庁が事業として取り組み始めて間もなく、報告書の形式や復元根拠の判断基準も曖昧である等、現状の問題点や課題を確認することができた。美術大学では、主に外部からの受託研究や博士研究として復元模写制作が行われており、文化財保存や個人の研究としての復元事例が蓄積されつつある。今後は目的に応じた復元手法や成果物の公開と活用方法にも意識を向ける必要性を確認した。

二年度は初年度に引き続き、復元事例に関する基礎調査と資料の収集を進めたが、特に商業や観光資源的要素の強い復元事例およびデジタル復元の実例について概要と現状把握に努めた。人の手による復元模写と、CGによるデジタル復元では制作目的や完成した復元の用途が異なる場合が多いが、精度については互いの長所・利点を組み合わせることにより原本の形態に忠実な復元が可能となることを再確認した。絵画材料の質感や量感、色彩の復元についてもアナログとデジタルの折衷手法が有効と考えられ、最先端の復元研究現場では着実に技術革新が進められていることが実感できた。デジタル復元に関しては技術者に取材を行い、特に線描のトレース方法について研究報告としてまとめた。

また、調査を進める中で日本における絵画復元は未だ歴史が浅く、学術的な研究対象として土壌が整っていない現状に直面した。そこで、基礎調査と並行して復元研究に関わる人材のネットワーク構築を目指し、若手研究者や学生を対象としたワークショップ開催に取り組んだ。第一回ワークショップは「日本絵画の色料を知る」と題して復元に関する諸問題の提起と、美術史研究者に対して日本画の色料の解説や技法実演を行った。第二回ワークショップは「資料調査の方法を知る」と題し、美術史および実技系研究者を対象に科学調査と材料分析の手法についての講義と調査機器のデモンストレーション、トレース図作成を通じた絵画史料の研究手法、文献資料の調査方法などを紹介した。ワークショップでは研究代表者、分担者、連携研究者らが各専門分野の立場から講師を務め、参加者へのアンケートも参照しながら興味関心が高い話題を取り上げるよう努めた。継続して参加する学生・研究者も多く、他分野の基礎事項を学ぶ機会を提供しながら、復元に関わるネットワーク作りの一助としての成果もあげることができたと考えている。ワークショップを通じて復元事業を受注している企業や工房関係者とも交流を深めることができた。また、最終年度には分担者が代表を務める若手研究(B)「『和様』をめぐる実証的研究 模倣と変容の位相」との共催ワークショップとして「絵画材料としての藍について」を開催した。絵画復元の際にも重要となる色料のひとつである藍の抽出法について、研究発表と実演を行い、多くの研究者の関心を集めた。これらのワークショップの成果については代表者らの所属学会にてポスター発表を行い、報告している。

研究成果については代表者・分担者を中心に学会発表、論文発表を行ったほか、代表者および分担者が編著に携わった書籍『日本画名作から読み解く技法の謎』の中では、日本絵画の復元に関わる諸問題と意義について論述し、今後の課題を広く一般にも提示した。

本研究課題の後継研究として平成29年度から基盤研究(C)「日本絵画の復元研究にお

ける復元根拠の再検討」が採択されたが、復元に関してさらに専門性を高めた調査を実施すると同時に、今後も若手研究者や学生を対象とした基礎的な講義と、研究者を対象とした応用的・専門的なテーマのワークショップを並行して開催し、復元に関するネットワークを広げていく計画である。本課題の研究期間を通じて、その土台作りができたと考えている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計 3 件)

鷹野佳世子「古典絵画の線描分析とトレース図の利活用に関する試論」東京藝術大学社会連携センター紀要、査読無、第2号、2017年、PP.48-58

京都絵美「幸区堀越東明寺「地藏菩薩像」について」『川崎市文化財調査集録』、査読無、50、2015年

鷹野佳世子「春日大社所蔵<春日社寺曼荼羅>の仏尊表現について」『仏教藝術』、査読有、336号、2014年、PP.9-32

##### [学会発表](計 8 件)

京都絵美「藍に関する諸問題 絵画史の視点から」ワークショップ「絵画材料としての藍について」2017年1月23日、東京国立博物館平成館小講堂(東京都台東区)

吉田直人「見る光と調べる光 史料の科学調査」ワークショップ「資料調査の方法を知る」2016年12月17日、東京大学福武ホール会議室(東京都文京区)

藤原重雄「形を写す/意味を伝える 絵画史料研究のためのトレース図作成」ワークショップ「資料調査の方法を知る」2016年12月17日、東京大学福武ホール会議室(東京都文京区)

高岸輝「日本美術史研究のための文献資料調査入門」ワークショップ「資料調査の方法を知る」2016年12月17日、東京大学福武ホール会議室(東京都文京区)

鷹野佳世子「日本絵画の<復元>に関わるネットワーク作りに向けた取り組み」文化財保存修復学会第38回大会、2016年6月26日、東海大学湘南キャンパス(神奈川県平塚市)

鷹野佳世子「日本絵画の復元について」ワークショップ「日本絵画の色料を知る」

2016年2月8日、東京文化財研究所(東京都台東区)

鷹野佳世子「日本画の画材のひみつを知ろう」サントリー美術館ワークショップ(招待講演)2015年11月3日、サントリー美術館(東京都港区)

吉田直人、鷹野佳世子「モノクローム資料写真からの彩色直接推定に関する基礎研究 撮影条件と写真の明暗の関係」文化財保存修復学会第36回大会、2014年6月8日、明治大学(東京都千代田区)

##### [図書](計 1 件)

宮廻正明、荒井経、鷹野佳世子『日本画名作から読み解く技法の謎』世界文化社、2014年、224頁

##### [産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

##### [その他]

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

鷹野 佳世子 (KARINO, Kayoko)

東京大学・史料編纂所・特別研究員

研究者番号：40570065

##### (2) 研究分担者

京都 絵美 (MIYAKO, Emi)

東京藝術大学・美術研究科・講師

研究者番号：40633441

吉田 直人 (YOSHIDA, Naoto)

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・保存科学研究センター・保存科学研究室長

研究者番号：80370998

(3)連携研究者

高岸 輝 (TAKAGISHI, Akira)

東京大学・文学部・准教授

研究者番号：80416263

藤原 重雄 (FUJIWARA, Shigeo)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：40313192

(4)研究協力者

( )